

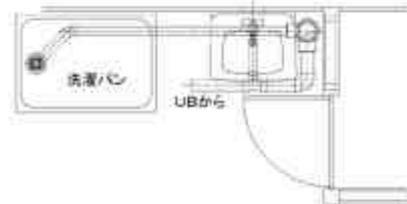
雑排水系統の

排水管更新に

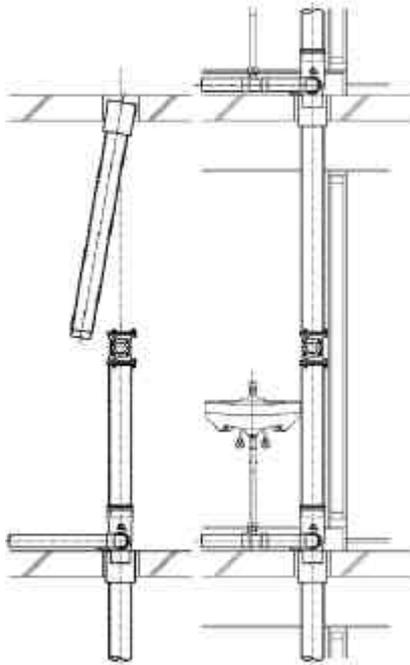
約 400 万戸にのぼると推計されるマンションストックのうち、築 20 年以上の物件が 25% 以上（約 100 万戸）を占めると言われています。そして、その多くでは外壁塗装、屋上防水および給水管の取り替え工事などがほぼ終わり、いよいよ次は排水管の更新時期を迎えています。排水管の更新は、ねじ込み式排水管継手のねじ部からの漏水が、動機となるケースが多いようです。以下に雑排水系統の排水立て管更新に好適（スラブ上面接合が可能な、多口管継手）な KST-S 2 方向型による更新例をご紹介します。

管内圧力と封水損失の関係

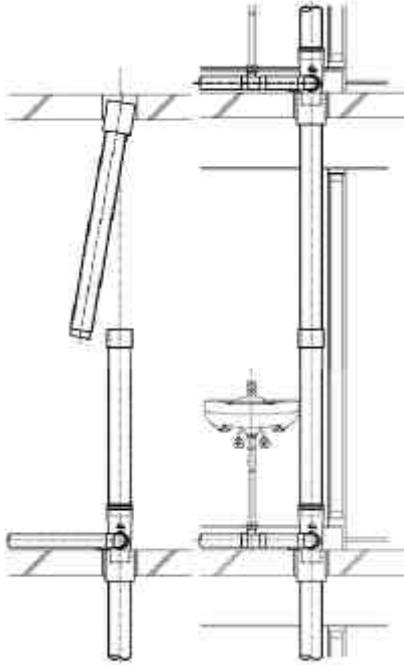
浴室、洗濯、洗面といった雑排水を 2 方向から 1 本の排水立て管に合流します。



2 分割した排水立て管を掃除口継手で接続する例



2 分割した排水立て管をソケットで接続する例



KST-S なら 1 人作業

・受け口付き排水立て管と KST-S によりスラブ上面接合により施工性が向上し、短期施工を実現します。

・居住している住戸内の排水管更新は、狭い場所での配管工事となりますので管を 2 分割して搬入しなければなりません。

現場写真



ねじ込み式排水管継手の撤去



既設雑排水管内の詰まりの状態



排水立て管の更新、2 分割した排水立て管を掃除口継手で接続した例